

「平成 25 年度第 1 回仁淀川清流保全推進協議会」における 委員の主な発言について

日時 : 平成 25 年 7 月 8 日 14:00~16:00
会場 : いの町 かんぼの宿伊野 1 階会議室

■ 寄付贈呈式

サニーマート伊野店、サニーアクシスイの店、サニーマート高岡店より、当協議会に対して、マイバッグ推進の活動により生まれた地域応援の品を仁淀川の清流保全に役立てて欲しいとの寄付の申し出（水切り袋 400 パック）があり、贈呈式を行った。

■事務局より交代委員の紹介

○交代委員

榎並谷 哲夫 委員 → 岡崎 誠也 委員（仁淀川流域交流会議会長）
刈谷 繁彦 委員 → 近澤 隆志 委員（伊野製紙工業会会長）
日浦 郷一 委員 → 西森 善光 委員（仁淀川森林組合代表理事組合長）
森 憲司 委員 → 中澤 一也 委員（いの町観光協会事務局長）
斉藤 均 委員 → 吉永 俊郎 委員（四国森林管理局計画保全部長）
野仲 典理 委員 → 安達 孝実 委員（高知河川国道事務所所長）

福留委員欠席の報告後に議題に移る。

■議題

1. 平成 24 年度事業報告及び平成 24 年度収支決算報告について

事務局より平成 24 年度事業報告及び平成 24 年度収支決算報告。吉永監事から監査報告があり、特に異議がなく、承認された。

2. 平成 25 年度事業計画及び収支予算

事務局より、資料に基づき、平成 25 年度事業計画及び収支予算について説明

○事業計画について

- ・大水が出ると川のゴミがすべて下流へ流れてきれいになっているという話を聞くが、皆が下流へ集まってゴミを拾うという試みをやってはどうか。
- ・清掃とシンポジウムの二つでやっているが、何を目的にやっているかと聞かれた時に答えられるような、具体的なシンボルが必要ではないか。

- ・高知市内では、(7月7日に)7河川と浦戸湾の一斉清掃を実施し、市内で8500人くらいの参加があった。最近の傾向として、中学校を中心とする生徒が増えてきている。シンポジウムのテーマが「川ガキ」なので、子どもを出来るだけ巻き込む工夫をした方が良い。
- ・広く取組を周知するため、仁淀川流域の小中学校の各家庭にチラシを配布する予定。
- ・次の世代へ美しい仁淀川を守りながら伝えていくのは我々の責任と責務。
- ・仁淀川漁協では「子供しばてんはだか天国」というイベントを8月3日から20日まで行う。作家の阿部夏丸さんと黒笹慈幾さんにも現地を見ていただいている。皆さんの協力をお願いしたい。

以上の質疑応答、意見交換の後、事業計画及び予算ともに承認される。

3. その他（報告事項など）

- ・取組への参加を長く継続してもらうには、動機づけのようなものも必要ではないか。例えば、参加団体について広報等で公表（紹介）したり、長く参加を続けているところには記念品をあげたり表彰したりできないか。
- ・活動費を確保することも大切。現在はスポンサーからの寄付金でやっているが、仁淀川が目立つ所へ企業名を付した清流保全に関する看板を立てるなどすれば企業としてもPRできるし、費用面でもプラスになるのでは。
- ・平成26年2月でアサヒビールとのパートナーズ協定が終わるので、引き続き協定を継続していただけるようお願いしているので、引き続き働き掛けたい。
- ・製紙工場の排水について、技術的に水をきれいにすることは可能だが、水を浄化した後のゴミ（スラッジ）の行き場を決めてやらないと立ち行かなくなる。スラッジの処理について、現状は企業が費用を出して処理をしており、処理をした物についても、県内の企業では大型のボイラがないために処理できず、産業廃棄物として県外の企業に処理費を払って使用してもらっている。県内のお金を使って処理しているのだから、県内で発電や温泉の燃料として利用してほしい。

- ・スラッジの処理について、以前に温泉の燃料にならないか研究したが、どうしても負荷がかかるとして、現在は使用されていない。

- ・国交省では、8月22日に土木学会と高知県、高知市と連携し、水シンポジウムを開催する。内容は、「清流の志国高知～豊かな水環境を活かした持続可能な地域づくり～」として、パネリストに石川先生も入っている。よろしければ参加いただきたい。また、国交省も流域の自治体と共催で、仁淀川と物部川の清掃を河川愛護月間の一環として実施した。午前7時からだったが、たくさんの地域の方に来て頂いた。こういう取組については、埋もれないように、参加されなかった方に情報発信していきたい。協議会でも様々な取組をしているので、情報発信をすれば、良い結果につながるのではないかな。

- ・仁淀川漁業協同組合のシンポジウムを8月18日に土佐市にグランディールで開催するが、国交省のシンポジウムと近い時期に開催される。内容も似ており、開催日が近いと人が分散してしまう。互いに協議し、同時に開催出来るならした方がよい。